２　調査書点の点数化について

（１）推薦入試（一般推薦、文化・スポーツ等特別推薦）における調査書点について

○　推薦入試（一般推薦、文化・スポーツ等特別推薦）では、観点別学習状況の評価（全 37 観点）又は評定（９教以下の東京太郎さんの例で調査書点の点数化について説明します。

（例）東京太郎さんの各教科の観点別学習状況の評価及び評定

教科	国語					社会				数学				理科				音楽			
観点別学習状況	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
評価	A	A	B	B	A	A	A	B	A	B	C	B	B	B	A	B	B	A	B	B	A
評定	4					5				2				3				4			

①各学校の求める生徒の姿に応じて、観点別学習状況の評価を調査書点として点数化する学校の場合

・　９教科（国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語（英語））の全３７観点の
・　各教科の特定の観点を重視する学校（**都立A高校**）や、特定の教科を重視する学校（**都立B高校**）があります。

都立A高校　観点別学習状況のうち、「関心・意欲・態度」を重視する学校
調査書点の満点が２３０点

教科名		国語					社会				数学				理科				音楽			
評価の観点		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
都立A高校の配点	A	10	5	5	5	5	10	5	5	5	10	5	5	5	10	5	5	5	10	5	5	5
	B	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	C	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

・「A」の配点を合計した「評価の得点の満点」２３０点を「調査書点の満点」２３０点に比例換算します。

都立B高校　エンジニアを養成することを目標とし、数学、理科、美術、技術・家庭の教科を重視する学校
調査書点の満点が５３０点

教科名		国語					社会				数学				理科				音楽			
評価の観点		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
都立B高校の配点	A	5	5	5	5	5	5	5	5	5	10	10	10	10	10	10	10	10	5	5	5	5
	B	3	3	3	3	3	3	3	3	3	7	7	7	7	7	7	7	7	3	3	3	3
	C	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

・「A」の配点を合計した「評価の得点の満点」２６５点を「調査書点の満点」５３０点に比例換算します。

②評定を調査書点として点数化する学校（都立C高校）の場合

・　９教科の評定を点数化します。各教科に傾斜配点を設けません。

都立C高校　調査書点の満点が 450 点の場合

調査書点は、　３４点×４５０点÷４５点＝３４０点　となります。

科）のどちらか一方を調査書点として点数化します。

美　術				保健体育				技術・家庭				外国語(英語)			
美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力	運動や健康・安全への関心・意欲・態度	運動や健康・安全についての思考・判断	運動の技能	運動や健康・安全についての知識・理解	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
B	A	B	C	A	A	A	A	A	B	B	B	A	A	B	A
3				5				3				5			

各学校が調査書点を点数化するときに、観点別学習状況の評価と評定のうち、どちらを活用するかと、各学校が定める調査書点の満点については、１１月上旬に発行予定の「平成２９年度東京都立高等学校募集案内」に明示します。

各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価したもの
A:「十分満足できる」状況と判断されるもの
B:「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
C:「努力を要する」状況と判断されるもの

評価（A、B、C）を点数化します。

〈重視する観点〉
A:１０点　B:3点　C:１点

〈その他の観点〉
A:5点　B:3点　C:１点

美　術				保健体育				技術・家庭				外国語(英語)				評価の得点の満点	調査書点の満点
Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ		
10	5	5	5	10	5	5	5	10	5	5	5	10	5	5	5	２３０	２３０
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3		
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		

・東京太郎さんの場合、観点別学習状況の評価の得点は、網掛け部分を合計した１７３点となるので、
調査書点は、　１７３点×２３０点÷２３０点＝１７３点　となります。

東京太郎さんが**都立A高校**を受検する場合の調査書点は**１７３点**（２３０点満点）

〈重視する教科の観点〉
A:１０点　B:7点　C:１点

〈その他の教科の観点〉
A:5点　B:3点　C:１点

美　術				保健体育				技術・家庭				外国語(英語)				評価の得点の満点	調査書点の満点
Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ		
10	10	10	10	5	5	5	5	10	10	10	10	5	5	5	5	２６５	５３０
7	7	7	7	3	3	3	3	7	7	7	7	3	3	3	3		
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		

・東京太郎さんの場合、観点別学習状況の評価の得点は、網掛け部分を合計した２０２点となるので、
調査書点は、　２０２点×５３０点÷２６５点＝４０４点　となります。

東京太郎さんが**都立B高校**を受検する場合の調査書点は**４０４点**（５３０点満点）

（２）学力検査に基づく入試（第一次募集・第二次募集・分割募集）における調査書点について

○　学力検査に基づく入試（第一次募集・第二次募集・分割募集）では、評定を調査書点として点数化します。

○　調査書点は、次の表のとおり、学力検査を実施する教科の評定を１倍、学力検査を実施しない教科の評定を２倍して、算出します。

学力検査の教科	１倍	２倍	評定の満点
５教科（国・数・英・社・理）の場合	国・数・英・社・理	音・美・保体・技家	６５点
３教科（国・数・英）の場合	国・数・英	社・理・音・美・保体・技家	７５点

（注）「評定の満点」は、各教科の評定が全て「５」である場合

以下の東京花子さんの例で調査書点の点数化について説明します。

（例）東京花子さんの各教科の評定

国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語（英語）
５	４	３	３	３	４	５	３	５

①　学力検査は５教科（国・数・英・社・理）、学力検査の得点と調査書点の比率は７：３で実施する学校の場合

・学力検査を実施する教科（国・数・英・社・理）の評定の合計は、５＋３＋５＋４＋３＝２０点
・学力検査を実施しない教科（音・美・保体・技家）の評定の合計は、（３＋４＋５＋３）×２　＝３０点
これらを足すと、２０点＋３０点＝５０点　となります。

学力検査の得点と調査書点の比率が７：３の場合、総合得点の満点は１０００点のため、調査書点の満点は３００点となります。

このため、東京花子さんの調査書点は、
５０点×３００点÷６５点（評定の満点）＝２３０点　となります。※小数点以下切り捨て

②　学力検査は３教科（国・数・英）、学力検査の得点と調査書点の比率は６：４で実施する学校の場合

・学力検査を実施する教科（国・数・英）の評定の合計は、５＋３＋５＝１３点
・学力検査を実施しない教科（社・理・音・美・保体・技家）の評定の合計は、（4+3+3+4+5+3）×２　＝44点
これらを足すと、１３点＋４４点＝５７点　となります。

学力検査の得点と調査書点の比率が６：４の場合、総合得点の満点は１０００点のため、調査書点の満点は４００点となります。

このため、東京花子さんの調査書点は、
５７点×４００点÷７５点（評定の満点）＝３０４点　となります。※小数点以下切り捨て

学力検査に基づく入試（第一次募集・第二次募集・分割募集）では、上記のとおり、評定を調査書点として点数化しますが、エンカレッジスクール（２７ページ参照）では、各教科の観点別学習状況の評価を用いて調査書点を算出します。